

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位 数	対象 学年	学 期	曜・限	主に使用 する言語	その他に使用 する言語	担当形態
身体診察	必修	実習 2	4	2		日本語		オムニバス
<b>【担当教員】</b> 臨床医学講座 教員								
<b>【科目名の英文】</b> Physical Examination								
<b>【授業の概要・到達目標】</b>								
<b>【授業の概要】</b>								
・統合された知識、技能、態度に基づき、患者の立場を尊重しながら、全身を総合的に診療するための実践的能力を獲得する。								
<b>【具体的な到達目標】</b>								
<b>《身体診察》</b>								
<b>(1) 基本事項</b>								
①患者の立場を尊重し、信頼を得ることができる。								
②患者の安全を重視し、有害事象が生じた場合は適切に対応ができる。								
③患者のプライバシー、羞恥心、苦痛に配慮し、個人情報等を守秘できる。								
④感染を予防するため、診察前後の標準予防策（standard precautions）ができる。								
⑤身だしなみ、言葉遣い及び態度等に気を配ることができる。								
⑥患者の状態から診察が可能かどうかを判断し、状態に応じた診察ができる。								
<b>(2) 全身状態とバイタルサイン</b>								
①身長・体重を測定し、body mass index <BMI>の算出、栄養状態を評価できる。								
②上腕で触診、聴診法により血圧を測定できる。								
③両側の橈骨動脈で脈拍を診察できる。								
④呼吸数を測定し、呼吸の異常の有無を確認できる。								
⑤腋窩で体温を測定できる。								
⑥下肢の動脈の触診等、下腿の血圧測定（触診法）、大腿の血圧測定（聴診法）を実施できる。								
⑦全身の外観（体型、栄養、姿勢、歩行、顔貌、皮膚、発声）を評価できる。								
<b>(3) 頭頸部</b>								
①頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。								
②眼（視野、瞳孔、対光反射、眼球運動・突出、結膜）の診察ができる。								
③耳（耳介、聴力）の診察ができる。								
④耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。								
⑤音叉を用いて聴力試験を実施できる。								
⑥口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。								
⑦鼻腔、副鼻腔の診察ができる。								
⑧鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。								
⑨甲状腺、頸部血管、気管、唾液腺の診察ができる。								
⑩頭頸部リンパ節の診察ができる。								
<b>(4) 胸部</b>								
①胸部の視診、触診、打診ができる。								
②呼吸音と副雑音の聴診ができる。								
③心音と心雑音の聴診ができる。								
④背部の叩打痛を確認できる。								
⑤乳房の診察を実施できる（シミュレータでも可とする）。								
<b>(5) 腹部</b>								
①腹部の視診、聴診ができる。								
②区分に応じて腹部の打診、触診ができる。								
③圧痛、腹膜刺激徴候、筋性防御の有無を判断できる。								

- ④腹水の有無を判断できる。
- ⑤腸雑音、血管雑音の聴診ができる。
- ⑥直腸（前立腺を含む）指診を実施できる（シミュレータでも可とする）。

#### **(6) 神経**

- ①意識レベルを判定できる。
- ②脳神経系の診察ができる（眼底検査を含む）。
- ③腱反射の診察ができる。
- ④小脳機能・運動系の診察ができる。
- ⑤感覚系（痛覚、温度覚、触覚、深部感覚）の診察ができる。
- ⑥髄膜刺激所見（項部硬直、Kernig 徴候）を確認できる。

#### **(7) 四肢と脊柱**

- ①四肢と脊柱（彎曲、疼痛）の診察ができる。
- ②関節（可動域、腫脹、疼痛、変形）の診察ができる。
- ③筋骨格系の診察（徒手筋力テスト）ができる。

#### **《基本的臨床手技》**

##### **(1) 一般手技**

- ①皮膚消毒を実施できる。
- ②静脈採血をシミュレータで実施できる。
- ③手指衛生、個人防護具（personal protective equipment : PPE）の着脱等の標準予防策（standard precautions）を実施できる。

##### **(2) 検査手技**

- ①尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
- ②末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
- ③微生物学検査（Gram 染色を含む）を実施できる。
- ④12誘導心電図を記録できる。
- ⑤経皮的酸素飽和度を測定できる。

##### **(3) 外科手技**

- ①無菌操作を実施できる。
- ②手術や手技のための手洗いができる。
- ③手術室におけるガウンテクニックができる。

##### **(4) 救命処置**

- ①救命処置が必要な状況か判断できる。
- ②一次救命処置が実施できる。

#### **《感染対策》**

##### **(1) 手指消毒・衛生的手洗い**

- ①流水による衛生的手洗いが実施できる。
- ②アルコールによる手指消毒を実施できる。

##### **(2) PPE（Personal Protective Equipment, 個人防護具）の着脱と廃棄**

- ①マスク、ガウン、アイプロテクション、手袋を適切に装着できる。
- ②マスク、ガウン、アイプロテクション、手袋を適切な手順で脱衣できる。
- ③脱衣後の防護具の廃棄を正しく行うことができる。

##### **(3) 清潔操作**

- ①清潔操作の意味を理解し、実践できる。

##### **(4) 手術時手洗い・ガウンテクニック・滅菌手袋の着用**

- ①手術時手洗いが実施できる。
- ②清潔ガウンの着脱が正しく実施できる。
- ③滅菌手袋の着脱が正しく実施できる。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. 患者に対し身体診察できる。	○	○				
2. 患者に対し基本的臨床手技ができる。	○	○				
各DPへの関連度 (計10)	5	5				

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	基本的臨床手技	基本的臨床手技 [OSCE 講義]	消化器外科・河野	講義
2	神経系診察	神経系診察 [OSCE 講義]	神経内科・木村	講義
3	救急	救急 [OSCE 講義]	救急医学・安部	講義
4	胸部・バリエーション診察 (循環器系)	胸部診察 (循環器系) [OSCE 講義] 全身状態とバリエーション診察 [OSCE 講義]	循環器内科・秋岡	講義
5	胸部・バリエーション診察 (呼吸器系)	胸部診察 (呼吸器系) [OSCE 講義] 全身状態とバリエーション診察 [OSCE 講義]	呼吸器内科・小宮	講義
6	腹部診察	腹部診察 [OSCE 講義]	消化器内科・水上	講義
7	頭頸部診察	頭頸部診察 [OSCE 講義]	耳鼻咽喉科・立山	講義
8	四肢と脊柱診察	四肢と脊柱診察 [OSCE 講義]	整形外科・糸永、宮崎	講義
9	基本的臨床手技	基本的臨床手技 [OSCE 実習]	消化器外科・河野	実習
10	手洗い実習	手洗い実習 [OSCE 実習]	麻酔科・池邊	実習
11	神経系診察①	神経系診察 [OSCE 実習]	神経内科・全教員	実習
12	神経系診察②	神経系診察 [OSCE 実習]	神経内科・全教員	実習
13	救急	救急 (スキルスラボ) [OSCE 実習]	救急医学・安部	実習
14	胸部・バリエーション診察	胸部診察 [OSCE 実習] 全身状態とバリエーション診察 [OSCE 実習]	循環器内科・高橋 呼吸器内科・小宮	実習
15	腹部診察	腹部診察 [OSCE 実習]	消化器内科・水上	実習
16	頭頸部診察	頭頸部診察 [OSCE 実習]	耳鼻科、内分泌代謝・膠原病・腎臓内科、眼科 教員	実習
17	四肢と脊柱診察	四肢と脊柱診察 [OSCE 実習]	整形外科・糸永	実習
18	感染対策	感染対策 [OSCE 実習]	医療安全管理医学・平松	実習

【アクティブラーニングの内容】

模擬患者やシミュレータ、オンライン教材を用いて医療面接や身体診察の技法、態度を学ぶ。

【その他の工夫】

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	①以下の教材 (医学教育センターHP 内) を用いて必ず予習しておくこと (20 時間) ・診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学習・評価項目 ・OSCE 学習受験ガイド ・OSCE サンプル課題 ・臨床実習前 OSCE 用の教育学習用動画 ②スキルスラボセンターでのシミュレータ等を用いた自主学習 (25 時間)
事後学修	
想定時間合計	45

<b>【教科書】</b> 教科書を指定しない。	
<b>【参考書】</b> 診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度についての学修・評価項目（1.1版） <a href="https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/index.html">https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/index.html</a>	
<b>【成績評価方法及び評価の割合】</b> 臨床実習前 OSCE の身体診察の全課題の成績の合計点を 100 点満点に換算し評価する。	
<b>【注意事項】</b> 実習は全て出席しなければならない。	
<b>【備考】</b> 講義は対面実施が可能な場合は臨床中講義室で行い、実習場所は別途指示する。	
リンク	URL
教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	医師
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×
教員以外の指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	基本的な臨床の手技について、各担当診療科の実務経験を元に指導を行う。
授業形態	講義・実習